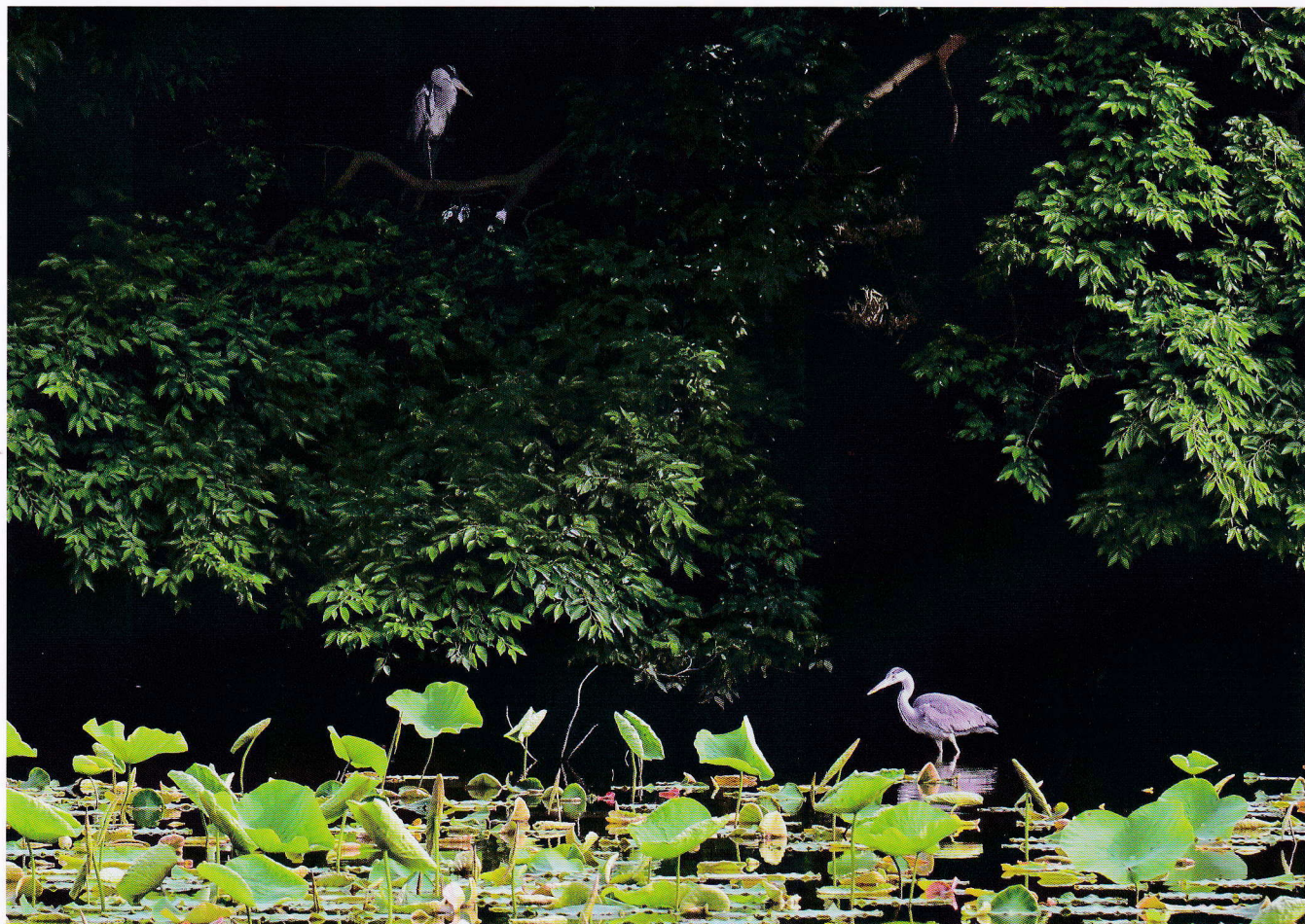


城のある都市復活

福岡城だより

2019.夏
SUMMER
No. 62



福岡城・城下町フォトコンテスト大賞作品「緑のサンクチュアリ」平井 精一様

淘汰とアーカイブズ

福岡市美術館館長 中山 喜一郎



「埋蔵文化財も古美術でしよ？」と問いかれたことがある。「地上から一度は失われたものと、ずっと守られ伝えられてきたものという違いはありますよ」と

と答えた記憶がある。一方で、「火事の際はこれ持って逃げる、と言われたから相当な値うちがあるはずだ」という掛軸を持ちこまれ、「価値はありません」と答えるかわりに「処分などしないで大切にしてください」と困った顔で返答したことは一度や二度ではない。ミュージアムは収集資料を選ぶ。一応の淘汰である。選んだものは保存し続けるから資料は確実に増え続ける。福岡のように掘れば何かが出てくる土地なら、埋蔵文化財はずっと増え続ける。アーカイブ（記録・保存）が重要なのはわかっているが、このまま増え続けても大丈夫かと少し心配になる。

博物館が扱う歴史資料は、近代の資料であっても一定の時間的な経過にともなって、保存し継承しようとする民意が働いている。学芸員は民意の代弁者として資料を調査する。そこではじめてアーカイブが行われ、あるものは文化財になる。生み出されたばかりの現代作品やアニメ、ゲームなどには時代の評価という淘汰を経ないものも多い。しかしアーカイブズがなければ、あとから検証できず、消費されて失われていくだけである。だから「なにこれ。わけわかんない」みたいなものをとりあげて展覧会に仕立て、ときには収集する美術館の学芸員は、「昔はわからなかったけれど、いま見るといいね」などと来館者に言われると、ほっとして胸をなでおろし、にわかには知ったかぶりの解説をはじめるのである。淘汰もアーカイブもなかなか難しい。

福岡市民の会会員

室川 康男 (画・写真・文)

「鴻臚館北館・東門：遣唐使風待ちの歌会」

7月の風の無い暑い日が続いています。沖には風待ちの4隻の遣唐使船が帆を下ろして、浜では船員たちが忙しく食料や水を運び込んで出航に備えています。

ここ東門2階は微かな海風で暑さはしのぎやすく、松林からはしきりに蟬時雨が聞こえてきます。海を見れば水平線の彼方に、北西の方角は遠く長安に、また東方は都に思いをはせることができます。

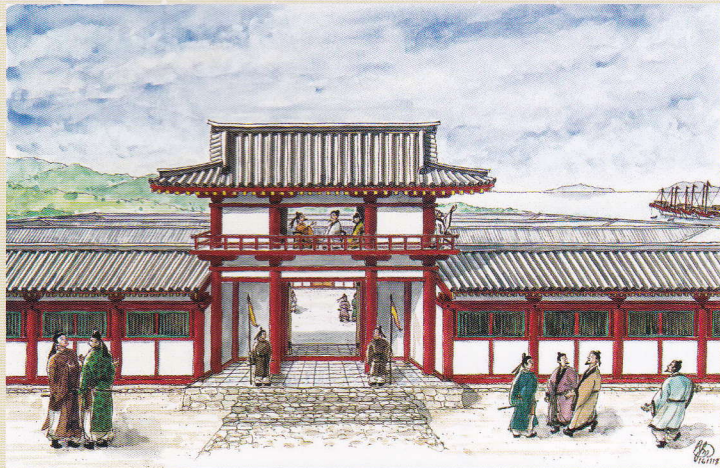
今、大使、副使を交えて歌会の真っ最中です。

季節風が頼りの遣唐使船。遣唐使一行は、風待ちのため幾日も鴻臚館に滞在し、囲碁や歌会を楽しみました。歌会では危険な航海の無事を祈り、また故郷で待つ妻子を偲んで歌を詠みました。

遣唐使は唐の元旦に行われる朝賀の儀に参列するために7～8月には出航します。南東の季節風を利用して、4隻編成で総勢500人前後が分乗し、朝貢の品を満載して、東シナ海の荒波を乗り切って入港しました。しかし一行の中でも正式な使節、随員のみ(4分の1ほど)が入京を認められ、さらに陸路を長安まで駅伝制によって送られました。復路は、先進の多くの文物を土産に冬の激しい西の季節風(帰りの方が遭難が多い)に乗って帰港しました。遣唐使は全20回(第一回630年～廃止894年)、260年もの長きにわたり行われた奈良、平安時代の政策です。無事帰国できたのは平均60%という決死の旅でした。旅のもう一つの目的は先進的技術、政治制度や文化、および仏教の経典などを持ち帰ること。これによって日本文化の礎が築かれていきました。



「鴻臚館北館・東門：小野篁と唐人沈道古、漢詩を唱和す」

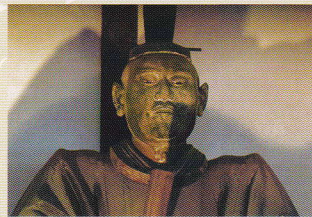


詩人、歌人で、武芸にも秀で、参議(公卿)という高位にまでなりましたが、奇行も多く、なぜか「閻魔庁の第二の冥官」とも言われていました。昼は朝廷に出て、夜は閻魔庁に勤めていたという奇怪な伝説が今なお語り伝えられています。そして京都、「六道珍皇寺」には冥界に通うのに使ったという井戸が本堂裏の庭内に実在しているのです。

潮の香りと蟬時雨の中、東門2階から、漢詩の唱和が朗々と聞こえてきます。その美しい唐代長安音の詩の響きに、ここは唐なの? 誰が唱和しているの? 居合わせた人たちは聞き惚れています。

滞在中の、大使藤原常嗣、副使小野篁(おののたむら)のもと第19次遣唐使の一行。時を同じくして滞在中に沈道古という唐人は小野篁が漢詩の達人と知り、申し出て二人はしばしば詩賦の唱和を行いました。その悠長な響きのなか航海を前にした一行にとっては心安らぐひと時だったでしょう。しかし出航の時となって、小野篁は船の件で大使と争い、病と称して唐へは行かなかったため嵯峨天皇の怒りに触れて、隠岐へ流罪となっています。

小野篁という人は学者、



小野篁像(六道珍皇寺)

「遣唐使、船出の別れ」

待っていた夏の季節風が吹き始めました。食料や水などは既に積み終わり、帆も上がっています。風待ちをしていた遣唐使一行が乗船を始めています。

鴻臚館の浜には別れを惜しむ姿がありました。決死の航海を前にして、第19次遣唐使大使藤原常嗣(2代目大宰権帥)と筑紫の娘女(おとめ)との別れでしょうか。あり得る光景です。正に大宰府水城東門での「帰京する大宰府長官大伴旅人と娘女児鳴との袖振りの別れ」場面をも想像させます。そして脇には妻子との別れを惜しむ副使の姿も。

遣唐使の構成は大使1人、副使1、2人、判官、記録官、下級官人、技術者や船員、他には留学生、僧侶ら総勢250～500人で構成されていました。





明治に活躍した福岡藩の先人たち

福岡市民の会ガイド 塚本 哲夫

第二回 「團 琢磨」

團琢磨は安政5年（1858）8月1日、筑前国福岡荒戸町（現在の福岡市中央区荒戸）で福岡藩馬廻役の神屋宅之丞、やす夫妻の四男として生まれました。明治3年（1870）12月、12歳のときに福岡藩権大参事、團尚静の養子となり、藩校修猷館に学びます。

翌年の9月、福岡藩主の黒田長知が岩倉使節団に同行してアメリカに留学する際に、前藩主の黒田長清から、金子堅太郎らとともに留学生に指名されます。長清は近代化路線を推進した開明的な考えの持ち主で、藩士の教育にも熱心だったことから、優秀な若い藩士を、日本を担う人材に育てようと考えたのだと思います。

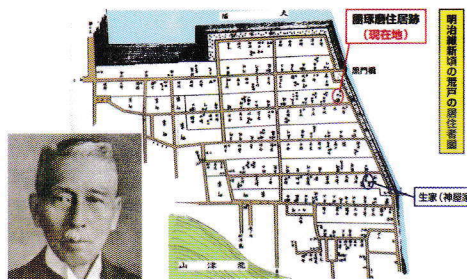
渡米後、マサチューセッツ工科大学に入学。鉱山学を学び、明治11年（1878）に帰国。明治15年（1882）2月には、金子堅太郎の妹芳子と結婚。明治17年（1884）



團 琢磨 住居跡 (1858年～1932年)

團琢磨は、安政5（1858）年、荒戸4番丁（現在の荒戸3丁目）で福岡藩士の馬廻役・神屋宅之丞の四男として生まれ、12歳の時に鑑定奉行・團尚静の養子となりました。当時、ここに團家の住居がありました。明治4（1871）年に、黒田家の海外留学生として金子堅太郎とともに岩倉使節団に同行して渡米し、マサチューセッツ工科大学で鉱山学を学びました。

明治17（1884）年から工部省に勤務し、明治21（1888）年に三池炭鉱が三井に払い下げられるときに移籍し三池炭鉱の事務所に就任。三池港の築港、鉄道の敷設など、近代的な炭坑経営に貢献をふるいました。大正3（1914）年には三井合名会社の理事長、つまり三井財閥の総帥となり、財界のリーダーとして活躍しました。團琢磨は当地区出身の偉人・賢人の一人です。



男爵・團 琢磨 (三井財閥の総帥・実業家)
当仁風土誌 (S58.3) 当仁風土誌編集委員会 著より
『明治維新の頃の荒戸の住居者』を編集
中央区役所 企画課
管理番号 H23R-5-8

壁に設置されているプレート

その死から79年後の平成23年（2011）3月12日には、團琢磨の数々の功績を讃えて、九州新幹線の新大牟田駅前に銅像が建てられました。このほか、平成27年（2015）7月8日には、三池炭鉱などの三池炭鉱関連遺産が「明治日本の産業革命遺産」製鉄・製鋼・造船・石炭産業の一つとして、世界遺産に登録されました。團琢磨の業績が世界に認められたものではないでしょうか。

には工部省鉱山局勤務となり、官営三池炭鉱が三井へ払い下げられた後は三井へ移り、三池炭鉱事務局長となります。明治35年（1902）の三池港築港時に、琢磨は「石炭山の永久などということはありませぬ（石炭が）なくなると、いま市となっているのが、また野になってしまふ。これは何か三池の住民の救済の法を考えておかぬと始末につかぬと、自分は一層この築港に集中した。築港をやれば、そこにまた産業を起すことができる。都会としてメンター（維持整備）するについて、築港しておけば百年の基礎になる」と語っています。

また、三池鉄道の敷設、大牟田川の浚渫のほか、英国のデビー・ポンプを採用し、水没した勝立坑の排水問題を解決します。このように、三池炭鉱の近代化に尽力したこと、三池炭鉱の父とも呼ばれました。業績を拡大した三井炭鉱は、三井財閥の中で銀行、物産と肩を並べる主要産業となり、三井炭鉱会長として手腕を発揮していた琢磨は、大正3年（1914）8月、三井合名理事長に就任。三井財閥の総帥になります。

このほか、日本工業倶楽部理事長、日本経済連盟会長など、昭和初期の財界の最高指導者として活躍しましたが、昭和7年（1932）3月5日、三井本館玄関で血盟団員菱沼五郎に銃撃され、73歳で死去しました。

四種のガイドツアー

（主催）福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会

1 絵を見て歩く福岡城内巡り

今はない櫓や門も再現した絵を見て往時を偲びます。

実施日 9月28日（土）・10月26日（土）・11月23日（土）

※内容は毎回同じです

2 福岡城内の秘密の場所

福岡城にまだまだ知らないことが一杯。そうだったのか福岡城。

実施日 9月8日（日）

3 福岡城内 櫓巡り

普段は入れない多間櫓、下之橋御門櫓の中に入ります。

実施日 9月22日（日）

4 もう一人の韋駄天 岡部平太物語

天狗と呼ばれた男岡部平太の人生と平和台との関係を探ります。

実施日 10月6日（日）

◆ガイドツアーの時間は全て10時～12時
◆集合場所 1、2、3は福岡城むかし探訪館 4は三の丸スクエア
◆申し込み 福岡市民の会
TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254
Eメール staff@fukuoka-jokorokan.info
実施は5～40名 ガイドツアー実施3日前木曜日締め切り

外国語で福岡城内巡り

募集しています

福岡市民の会ガイドのカロリンはフランス生まれで語学に堪能です。英語、フランス語、イタリア語も話します。もちろん日本語も。彼女はフランスでガイドの国家ライセンスを取得し、40年間ルブル美術館やベルサイユ宮殿などのガイドをしました。現在は福岡市民となり、鴻臚館・福岡城の歴史はもちろん博多・福岡、日本の歴史を学んでいます。福岡城内を外国語のガイドで巡りたい方や外国人知人、家族グループがありましたら福岡市民の会に連絡してください。

福岡城内 ラブアース・クリーンアップ

（主催）福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
6月23日（日）福岡城内にて全国一斉の清掃活動を行いました。ボーイスカウトやガールスカウトの子ども達も多く参加して、総勢280人以上の参加者でした。曇り空の下、城内のゴミ拾いや草取りなどで無事終了しました。皆さまお疲れ様でした。



NPO法人 福岡城市民の会総会開かれる

2019年度通常総会が6月14日午後、福岡市中央区の読売新聞西部本社1階「よみうりプラザ」で開催され、2018年度決算と今年度の事業計画案、活動予算案が承認されました。

平成30年度決算 活動計算書

平成30年4月1日平成～31年3月31日まで (単位: 円)

科目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1. 会費収入			
正会員受取会費	1,020,000		1,020,000
賛助会員受取会費	772,000		772,000
2. 受取寄付金	17,286		17,286
3. 事業収入			
イベント事業	188,000		188,000
市民講座事業	1,813,350		1,813,350
広報事業		4,525	4,525
4. その他収益			
受取利息	29		29
雑収益	140,471		140,471
経常収益計	3,951,136	4,525	3,955,661
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 仕入			
期首商品棚卸高		487,244	487,244
当期仕入高			0
他勘定振替高		△ 110,485	△ 110,485
期末商品棚卸高		△ 376,227	△ 376,227
仕入原価計	0	532	532
(2) 人件費			
給料手当	528,000		528,000
福利厚生費			0
人件費計	528,000		528,000
(3) その他経費			
外注費	100,000		100,000
広告宣伝費	3,812		3,812
ガイド料	101,000		101,000
消耗品費	22,364		22,364
旅費交通費	79,600		79,600
諸会費	20,000		20,000
保険料	6,750		6,750
通信費	222,153		222,153
手数料	115,636		115,636
諸謝金	715,000		715,000
印刷製本費	311,040		311,040
寄付金	174,228		174,228
雑費	195,737		195,737
その他経費計	2,067,320	0	2,067,320
事業費計	2,595,320	532	2,595,852
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	96,000		96,000
給料手当	975,420		975,420
法定福利費	5,345		5,345
人件費計	1,076,765		1,076,765
(2) その他経費			
顧問料	216,000		216,000
広告宣伝費	15,433		15,433
事務用品費	345,391		345,391
旅費交通費	97,740		97,740
手数料	60,006		60,006
租税公課	600		600
保険料	5,940		5,940
通信費	223,416		223,416
諸会費	67,000		67,000
新聞図書費	49,533		49,533
会議費	12,960		12,960
雑費	88,196		88,196
その他経費計	1,182,215	0	1,182,215
管理費計	2,258,980	0	2,258,980
経常費用計	4,854,300	532	4,854,832
当期経常増減額	△ 903,164	3,993	△ 899,171
III 経常外収益			
1. 前期損益修正益	0		0
経常外収益計	0		0
IV 経常外費用			
1. 雑損失	2,700		2,700
経常外費用計	2,700		2,700
経理区分振替額	3,993	△ 3,993	0
税引前当期正味財産増減額	△ 901,871	0	△ 901,871
法人税、住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			△ 972,871
前期繰越正味財産額			3,725,362
次期繰越正味財産額			2,752,491

2019年度事業計画

2019年度のイベント事業として「どんたく福岡城演舞台」を当会関係機関の読売新聞西部本社、FBS福岡放送、エフエム福岡と実行委員会を立ち上げて運営をする。5月3日午前中は市民どんたく隊の受け入れ、5月4日午前中は黒田家第16代当主黒田長高様をお迎えし、柳生新影流による四方蹴い、稚児の舞楽等の伝統行事を行う。下之橋御門広場では三福神を迎え、一束一本の儀式を行う。両日とも午後は、若者による「福岡城ダンス・フェス」が行なわれる。

観覧の時期には、福岡市が主宰する「福岡城さくらまつり」にあわせて、まつりの期間中利用できるお茶券を会員へ配布して、素素のご支援に報いる。

研究・啓発事業の柱として続く「福岡歴史観光市民大学」は2019年度で第12期の開催となる。充実した講師陣を迎え、高レベルでありながら市民の方々が理解しやすく、しかも他の市民講座にはない特色ある講義を提供したい。ガイドツアー事業では好評の福岡城めぐり、及び福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会の主催で行うストーリーツアーを更に工夫して実施する。また、ゆかりの地を訪れる歴史探訪ツアーも計画している。昨年度から新たに始めた株式会社大央の特別協賛による「福岡城・城下町フォトコンテスト」を実行委員会主催で実施する。また「福岡市民大茶会」や「みどりのまちマルシェ」など他団体との連携・共催事業も引き続き実施する。

以上の諸計画を円滑に推進していくために、財政基盤の一層の充実と事務局体制の整備が引き続き課題である。ひきつづき会員拡大のためキャンペーンを展開し、役員・関係者・事務局員が協力して、会員拡大に努めるとともに、運営面では徐々に進めてきた事務局の充実をより図り、2019年度も積極的な取り組みを続け会員各位のご期待に応えていきたい。

石井理事長は、総会冒頭、会員の皆様のご支援へ感謝の言葉を述べた後、次のように語りました。「NPO設立以来の念願である天守閣復元を掲げつつ、世情の変化に対応した活動が必要である。行政が文化財等の保護・復元から整備・活用の方へシフトしている中、当会もそれに従いつつ、また国際化の要請にあった活動もしていきたい」

《報告》

5月24日の理事会を経て総会が開催され、無事終了したことを、会員の皆様にご報告します。この度は、役員の選任が行われ、従来からの理事に加わえ新任理事として、千相哲氏(九州産業大学 地域共創学部長)、三角薫氏(福岡商工会議所 総合企画部参事役)の両氏が加わりました。詳細につきましては、当会のHPに掲載しています。ご質問がありましたら、当会へお尋ねください。

総会後は、「記念講演」として福岡市住宅都市局花とみどりのまち推進部みどり政策課主査別府浩司氏による、セントラルパーク構想をテーマにした講演がありました。セントラルパーク基本計画の概要と構想策定後からこれまでの取り組み状況など、限られた時間内に収まるようコンパクトながらも、大変わかりやすく説明していただきました。計画について記者発表があった直後でもあり、会場の会員からは質問が相次ぎ、皆さんの関心の高さがうかがわれました。

夕方は、会場を天神「野の葡萄」に移し、40余名の会員の皆様が和気藹々と交流を深めました。

編集後記

今回の総会後の講演は「セントラルパーク構想」についてのお話でした。大濠公園と舞鶴公園を一体化した構想ですが、会場の会員からは名称を「福岡城公園」と変更してはいかがか…との意見に拍手が上がっていました。今後の進展を長く見守りたいと思います。会員の皆様のお声をぜひお待ちしております。

編集・発行

NPO法人: 福岡城市民の会

〒810-0042

福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階

TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254

[HPアドレス] <http://fukuokajokorokan.info>

[E-mail] staff@fukuokajokorokan.info

[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡城市民の会

検索

黒田家ゆかりの地を訪ねる
歴史探訪ツアー

「福岡」の地名はこの合戦により生まれる！

黒田長政の関ヶ原合戦

実施日

令和元年9月14日(土)・15日(日)

JR博多駅 新幹線 7時集合・翌20時半帰着

コース

「一日目」関ヶ原・黒田長政・竹中重門陣跡・垂井・五明稻荷神社・青我記念館・竹中氏陣屋跡・榊原寺・竹中半兵衛墓・東軍赤坂本陣・合渡川戦跡・ホテル

「二日目」大垣城・桃配山徳川家康最初陣跡・関ヶ原歴史民俗資料館・石田三成陣跡・島津陣跡・小西陣跡・徳川家康最後陣跡・田中吉政陣跡・福島正則陣跡・関ヶ原駅前観光交流館・JR米原駅

参加料 (お一人様)

2名1室…73,000円
1名1室…76,000円

申込み (株)西日本新聞旅行 担当:岡崎

TEL 092-711-5518
FAX 092-711-1969

締切り
8月30日(金)

新規会員名簿 (敬称略)

(2019年6月30日現在)

正会員(個人)

千 相哲 原 寛

大久保 征太郎

一般会員(個人)

廣岡 まり 廣岡 茂男

西木 康則 相良 新介

濱田 長司 古賀 カロリン

鈴木 典子 石上 博

文化人・経済人
交流納涼会

日時 8月29日(木)
18時〜20時

場所 JR九州ホテルブロッサム
「こちそうダイニング」
ななつの花

会費 6,000円

当会の会員の方も会員でない方も、お気軽にご参加ください。詳しくは左記の福岡城市民の会にお尋ねください。